◎　社会部門（中）

1　行事及び内容

(1)　研究主題　　「未来を拓く力を育む社会科学習の創造」
～教材化の視点と教材の選択を通して～

(2)　研究の目標

①　社会の一員としての自覚や態度を身に付けた見方や考え方を養う「本当に分かる授業」の明確化

②　「本当にわかった」というレベルである「意義がわかる」授業の構造化

③　「意義がわかった」ことが見える、相手の共感を伴うような言語表現活動の具体化

④　授業づくりにおける、教材がもつ条件の追究（教材化の視点と教材の選択条件の明確化）

(3)　研究経過

①　６月　５日(金)　第１回小中学校社会科教育研究委員会

②　８月　３日(月)　天草郡市中学校社会科教育研究会「授業づくり研修会」（１９人参加）

③　８月２０日(木)　研究発表会学習指導案検討会１（８人参加）

④　９月１７日(木)　研究発表会学習指導案検討会２（１１人参加）

⑤１０月　７日(水)　研究発表会学習指導案検討会３（７人参加）

⑥１０月２７日(火)　天草教育研究所中学校社会科部門研究発表会（２９人参加）

会　場　天草市立本渡中学校
授業者：授業者　天草市立本渡中学校　川野健太郎教諭
単元等　３年公民「国の政治のしくみ」
実践発表者：天草市立河浦中学校　中山俊輔教諭
講演：演題「わかる社会科授業とアクティブラーニング」
講師：九州ルーテル学院大学人文学部人文学科教授　豊田憲一郎氏

⑦　２月１０日(水)　天草郡市小中学校社会科教育研究委員会

2　本年度の反省及び今後の課題

(1)　成果

①　本年度から天草を４つの支部に分け、今後は持ち回りで研究授業と実践発表を行うという明確な流れをつくり、組織作りを行うことができた。

②　夏季休業中に「授業づくり研修会」を実施した。天草全体で２５名しかいない社会科教員が力をつけるためには、教材研究から指導案検討・作成という段階を丁寧にしながらしっかりした授業を行うことが大切である。そのために、公民的分野の裁判員制度の授業づくりを４つのグループに分かれて行った。導入から学習課題設定、共同解決、まとめまでそれぞれのグループで検討した内容を全体で協議して指導案の大まかな方向付けを行った。この授業づくり研修をもとにして、１０月の研究発表会の研究授業を行ったところである。

③　研究発表会を終日行い、提案授業、実践発表、講演と理論と実践をつなぐ研究会にした。授業研究会はワークショップ型にして、ベテランから若手まで充実した意見交換の機会が確保された。教材や学習課題の工夫、共同解決の工夫、学習評価の工夫等で熱心な協議を行い、情報交換も充実していた。

④　講師の先生の講演を聞き、社会科教師として理解しておきたい不易な部分と最新の理論について学ぶことができ、とても良い研修になった。

(2)　課題

①　天草全体が広域のため、夜の指導案検討会への参加が厳しい教員もいた。

②　授業者が自由に相談できる体制や、指導案を共有化することで若手教師の授業づくりの参考となる機会を今後さらに作り上げる必要がある。